

## はじめに

まずはこの本を手にとっていただき、ありがとうございます。もしあなたが、ご自身や家族の住環境や生活スタイルについて考えるとき、少しでも自然を身近に感じたいというイメージがあれば、この本を最後まで読んでみても時間の無駄にはならないでしょう。

これから家を持つとを考えている方、とりあえず住宅展示場に行こうとしている方。自然素材や植物が好きな方。アルミ既製品を組み合わせた外構に違和感がある方。庭のことは全然わからないけど自然は好きだという方。いい風景をつくりたいと尽力している建築関係などのプロの方。「外構は実はもっと自由で、庭はとても面白い！」ということをとくさんの方に知ってもらいたいという一心でこの本を書いてきました。お仕事関係でしている方を除いて、一般的に何かを建設するということは人生でそうたくさん経験するものではありません。つくってみて、暮らしてみて、満たされるか、もっとこうすれば良かったと不満に思うかは、やってみて初めて気づくという方が実は非常に多いのです。簡単ではない選択をしていくうえで、慎重になりすぎても前へ進むことができませんが、大きな失敗はしないようにいろいろな手法や価値観は知っておくべきです。

この本では、まず庭と風景の関係について考え、次にいい庭を造るコツ、家と庭の関係。そして施工事例や自身の家づくりを踏まえ、庭との向き合い方や庭を持つ意味に触れていきます。最後は少し街の環境について、庭づくりをしている者の視点で書いていますが、個人の小さな庭でも街の植栽の話でも、一貫して重要であることは美意識をおざなりにしないことだと考えているためです。

本当の豊かさとは？ 自然体で生きるとは？ 自身の周りの環境づくりについて、深く考えるきっかけになってくれれば幸いです。

私たちは京都・滋賀を拠点とし、「風景をつくろう」というコンセプトを掲げ、造園、剪定、敷地のトータルプロデュース、ランドスケープデザインなどを生業としており、機能美の見えるプランや石や木などの自然物を扱った外構工事、庭造りが得意です。夫は元ログビルダーで庭職人、妻である私は建築設計事務所出身で夫の独立を機に「植威」のデザイン担当となり、今日に至ります。

学生のころから自然や建築や町並みなどを見に行くのが好きで、今までヨーロッパの主要な街をはじめ、アジア、中東など、独特の異文化や風景を求め、旅をしてきました。美しい町並みに歴史や必然性を感じ、自分の街を誇りに思う人々にたくさん出会いま

した。自分の住む日本とは違う歴史、風土、街並み、風景。そういうものを見てきて美意識を鍛えられたと同時に、日本の街並みに面白味のなさを感じずにはいられませんでした。

自分たちの住むこの日本を、もっと身近な街単位で少しでもいい風景にしていくことはできないだろうか。いきなり大きく風景を変えることはできないけれど、点と点が繋がり広がっていくようなイメージで、緑豊かないい庭が広がっていけば、街並みはもっと豊かでわくわくする空間になっていくのではないか。私たちだけの力では難しいけど、多くの人が植物や風景に意識を向けることで、少しずつ変わっていくのではないか。そして人々の美的感覚はもっと育っていくのではないか。心の奥に常にそういう希望を持っていて、現場目線の夫と計画目線の妻が、日々意見をすり合わせながら、いい風景を造っていきたいという想いで頑張っております。

本書は、植威のデザイン担当・植木マサコが執筆していますが、現場担当の夫の普段の考えや言葉を文章化している部分も多くありますので2人の著書とさせていただきます。また、専門書やhow to本ではなく庭づくりをベースにした思想書と思っていただくと、読んでいてストーンと落ちてくるのではないかと思います。

さあ、あなたが身を置くべきかもしれない風景や環境について、

考えていきましょう！

植威 植木マサコ